

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-154569
(43)Date of publication of application : 16.06.1995

(51)Int.Cl.

H04N 1/32
H04L 9/32

(21)Application number : 05-296830

(71)Applicant : CANON INC

(22)Date of filing : 26.11.1993

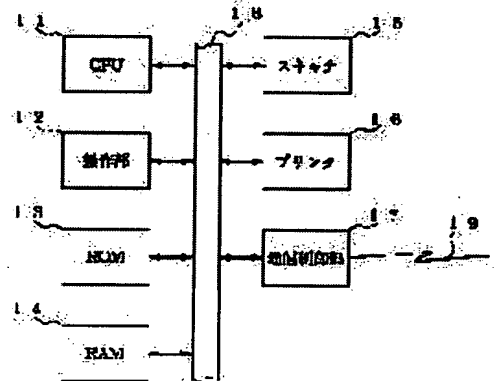
(72)Inventor : SHINODA HIROSHI

(54) FACSIMILE EQUIPMENT

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain the facsimile equipment communicating picture data through the use of plural passwords of different forms by providing a means controlling selectively the operation of password communication depending on plural sets of password information.

CONSTITUTION: Password information A peculiar to a manufacturer, standardized password information B and data in the collation mode are set to a password registration table in a RAM 1-4 with a registration operation from an operation section 1-2. Upon the receipt of signals NSS and PWD from an opposite equipment, a CPU 1-1 stores tentatively password A, B information being the content tentatively and compares it with the registered password information and only when they are coincident, the reception of a picture signal is executed. Thus, the equipment is operated effectively to any of closed groups comprising the different password form and the equipment satisfying the entire password communication of a closed group formed by the different password is obtained efficiently.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 27.11.2000
[Date of sending the examiner's decision of rejection] 07.10.2003
[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]
[Date of final disposal for application]
[Patent number]
[Date of registration]
[Number of appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (J" P)

(12) 公開特許公報 (A)

補正あり

(11) 特許出願公開番号

特開平7-154569

(43) 公開日 平成7年(1995)6月16日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

H 0 4 N 1/32

E 7251-5C

H 0 4 L 9/32

H 0 4 L 9/ 00

A

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号

特願平5-296830

(22) 出願日

平成5年(1993)11月26日

(71) 出願人 000001007

キヤノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72) 発明者 信田 弘志

東京都大田区下丸子3丁目30番2号キヤノ
ン株式会社内

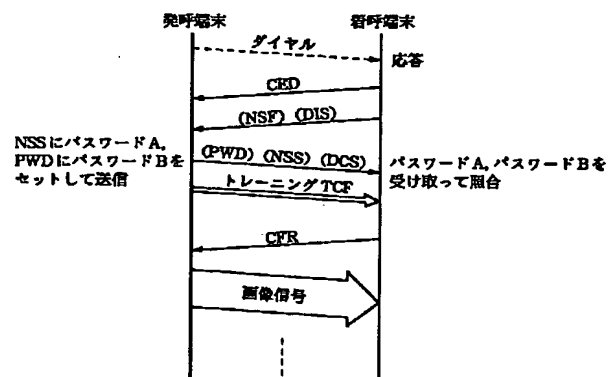
(74) 代理人 弁理士 丸島 儀一

(54) 【発明の名称】 ファクシミリ装置

(57) 【要約】

【目的】 異なる型式の複数のパスワードを使用して画像データの通信を行うファクシミリ装置を提供する。

【構成】 自社型式のパスワードAと標準型式のパスワードBとを送受信して閉域グループの通信を行う。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 呼制御手段と、遠隔の相手装置と通信を行なうための伝送制御手段と、該伝送制御手段を使用し相手装置との1回の通信中にメーカー特有の形式であるパスワード情報と相互交信可能な装置間で標準化された形式であるパスワード情報を含む異なる種類の複数のパスワード情報を送受信する手段と、前記複数のパスワード情報を入力する入力手段と、前記複数のパスワード情報を記憶する記録手段と、前記複数のパスワードによるパスワード通信の動作を選択的に制御するための選択手段を具備してなるファクシミリ装置。

【請求項2】 請求項1において、前記伝送制御手段を使用して前記パスワード情報を受信した場合には、メーカー特有の形式であるパスワード情報のみを照合し判定する動作と、標準化された形式であるパスワード情報のみを照合し判定する動作と、メーカー特有の形式であるパスワード情報および標準化された形式であるパスワード情報の両方を照合しいずれか一方の照合確認にて判定する動作と、メーカー特有の形式であるパスワード情報および標準化された形式であるパスワード情報の両方を照合し両方の照合確認にて判定する動作のうち、少なくとも2つの動作からいずれか1つを、前記選択手段により選択して動作することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項3】 請求項1において、前記伝送制御手段を使用して前記パスワード情報を送信する場合には、メーカー特有の形式であるパスワード情報のみを送信する動作と、標準化された形式であるパスワード情報のみを送信する動作と、メーカー特有の形式であるパスワード情報および標準化された形式であるパスワード情報の両方を送信する動作のうち1つを前記選択手段により選択して動作することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項4】 異なる型式の複数種類のパスワードから使用するパスワードの形式を選択する手段と、前記選択手段で選択されたパスワードの型式に基づいて、画像データの通信を行うか否かを判定する判定手段とを有するファクシミリ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、通信回線を介して他の端末と通信するファクシミリ装置のパスワード通信機能に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来より、通信網サービスの1つとして閉域接続を提供している網があるが、ファクシミリなどの通信端末装置側でも相互接続可能な端末間でパスワードなどを使用して、閉域接続通信の機能を提供しているものがある。このような端末側でのパスワードは、網が閉域接続サービスを提供していない場合や、網のサービスを受けるために特別に料金がかかったりする場合、端末のユーザにとって便利な機能として使用されている。

端末によるパスワード通信機能は、あらかじめ装置に登録したパスワード情報と一致したパスワードを送信してきた相手装置とだけ通信する機能であり、現在市販されているCCITTのG3勧告・G4勧告準拠のファクシミリ装置では、多くの装置に搭載された機構である。しかしながら従来、前記勧告ではパスワード通信のための規格が規定されていなかったため各メーカーはそれぞれ独自の手法でパスワード通信機能を実現してきた。従って、従来よりパスワード通信は、同一メーカーの装置同士の間でのみ可能であって、パスワード通信をしたいユーザは、装置をすべて同一メーカーから入手する必要があった。ところが、最近CCITTの勧告には、異なるメーカーの装置間でもパスワード通信を行なうことができるように、パスワード通信の信号が標準化されることになった。これに伴い、ユーザ側も異なるメーカーの装置を導入してパスワード通信による閉域接続を利用することが可能となる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 図5は、標準化されたパスワード機能を搭載した装置を『新』、メーカー独自のパスワード機能のみを搭載した装置を『旧』として表現した場合の閉域接続の状態を図示したものである（A社の観点からまとめている）。5-2は従来の同一メーカー装置のみの閉域グループであり、この場合はメーカー独自のパスワード機能だけしか利用できない。5-3も同一メーカー装置のみの閉域グループであるが、標準化されたパスワード機能も利用することができる。5-4は異なるメーカーの装置どうしの閉域グループであり標準化されたパスワード機能のみ使用できる。5-5は同一メーカー装置のみの閉域グループであるが、『新』『旧』装置が混在している。市場においてはこれらの閉域グループの存在が考えられる。そして各グループのユーザ毎に前記異なる2種類のパスワードの運用方法が異なることが考えられる。

【0004】 例えば；

- (1) 5-2のグループにA社『新』装置が導入される時求められることは、
 - a. A社独自のパスワード機能のみを使用し、標準化パスワード機能は使用しない。
- (2) 5-3のグループにA社『新』装置が導入される時求められることは、
 - a. A社独自のパスワード機能のみを使用し、標準化パスワード機能は使用しない。
 - b. 標準化パスワード機能のみを使用し、A社独自のパスワード機能は使用しない。
 - c. A社独自のパスワード機能と標準化パスワード機能の両方を使用し、いずれか一方が一致した時通信できる。
 - d. A社独自のパスワード機能と標準化パスワード機能の両方を使用し、両方が一致したとき通信できる。

(3) 5-4のグループにA社『新』装置が導入される時求められることは、

- a. 標準化パスワード機能のみを使用し、A社独自のパスワード機能は使用しない。
- b. A社独自のパスワード機能と標準化パスワード機能の両方を使用し、いずれか一方が一致したとき通信できる。

(4) 5-5のグループにA社『新』装置が導入される時求められることは、

- a. A社独自のパスワード機能のみを使用し、標準化パスワード機能は使用しない。
- b. A社独自のパスワード機能と標準化パスワード機能の両方を使用し、いずれか一方が一致したとき通信できる。

【0005】しかし、従来の装置では、1台の装置でこれらの要求条件に全て対応できるものがなかった。

【0006】本発明では、上述従来例の欠点に鑑み、以下の手段を持つことによってこれを解決するものであり、異なる型式の複数のパスワードを使用して画像データの通信を行うファクシミリ装置を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段及び作用】上記課題を解決するため、本発明は呼制御手段と、遠隔の相手装置と通信を行なうための伝送制御手段と、該伝送制御手段を使用して相手装置との1回の通信中にメーカ特有の形式であるパスワード情報と相互通信可能な装置間で標準化された形式であるパスワード情報を含む異なる種類の複数のパスワード情報を送受信する手段と、前記複数のパスワード情報を入力する入力手段と、前記複数のパスワード情報を記憶する記録手段と、前記複数のパスワードによるパスワード通信の動作を選択的に制御するための選択手段を具備したことを特徴とする。

【0008】

【実施例】図1に本発明によるファクシミリ装置のブロック図を示す。本装置は、公衆電話網(PSTN)に接続して使用するCCITT勧告G3規格に準拠したファクシミリ装置である。図1の1-1はシステム制御用の公知のCPU、1-3はプログラム格納用の公知のROM(Read Only Memory)、1-4は1-1のワークエリアとして、また1-5にて読み取られた画像データの格納用エリアとして使用する公知のRAM(Random Access Memory)、1-5は原稿を光学的手段で読み取り、電気信号に変換した後、画像データとして1-4のメモリに転送する公知のスキャナユニット、1-6は1-7で受信した画像データを1-8のCPUバスを介して受取り印字する公知のプリンタユニット、1-2はテンキーを含むキーボードとLCD表示部によって構成される公知の操作パネル、1-7はNCU回路によってネットワークと接続さ

れ、モデムを制御してファクシミリ伝送制御手順(CCI TT勧告T. 4、T. 30)を実行する公知の通信ユニットである。図2～図4は本発明による装置のパスワード通信手順を示すものである。図2に、メーカ独自手順のみを使用したパスワード通信手順を示す。NSF、NSSは共に、CCITT勧告T. 30に規定されているオプション信号であり、メーカ独自の情報をのせることが出来る。従来より各メーカは独自のパスワード情報(以後パスワードAと呼ぶ)をNSF、NSSにのせて

パスワード通信を行なっている。NSSのフォーマットについては図9にて説明する。NSSを受信した端末は、NSS中のメーカコードを識別し、自社コードならNSS中のパスワードA情報と装置に登録されたパスワードA情報を照合し、一致していればCFRを送出して画像信号の受信に向かう。一致しなければ、相手装置は閉域グループのメンバーでないと判断して通信を中断する。図3にPWD信号のみを使用したパスワード通信手順を示す。DIS中にPWD受信機能ありが宣言されていたらPWDを送信する。PWD信号は、G3規格のファクシミリに標準化されたパスワード情報(以降パスワードBと呼ぶ)をのせるための信号であり、フォーマットを図9に示す。PWD信号を受信した装置は、PWD中のパスワードBを装置に登録されたパスワードB情報と比較し、一致していればCFRを送出して画像信号の受信に向かう。一致しなければ、相手装置は閉域グループのメンバーでないと判断して通信を中断する。

【0009】図4は、パスワードA、B両方を使用したパスワード通信手順を示す。着信端末のNSFをみてNSSにパスワードAを、またDISを確認してPWD受信機能ありならPWDにパスワードBをセットして送信する。着信端末はPWDおよびNSSによってパスワードA、Bを受信したらそれらを確認し、相手装置が閉域グループのメンバーであると判断すると通信を継続し、そうでなければ中断する。

【0010】図5は、閉域グループを構成する端末の組み合わせを示す図であり、図14は図5のそれぞれの端末どうしがパスワード通信をする際、使用可能な信号(NSS、PWD)を示すものであり、図15は図14に基づいて、図5のそれぞれのグループでのパスワード照合方法の可能性についてまとめたものである。同時に図15は、本発明による端末のパスワード通信動作を全て示すものである。

【0011】図6は図1の1-2の操作パネルの外観図である。6-1はLCD表示部、6-2は通信の開始を指示するためのスタートキー、6-3は操作の中断を指示するためのストップキー、6-4はテンキー、6-5、6-6はパスワードA、Bをそれぞれ登録するための登録キー、6-7はパスワード通信動作を選択するために使用する照合モードキー、6-8はテンキーからの入力データを確定して記憶登録させるためのセットキー

である。

【0012】図7に前記パスワード通信動作を選択するための照合モードの操作表示を示す。待機状態において、照合モードキーを押すと照合モードの選択表示が出る(a)。(a)の表示でセットキーを押すと、パスワードAのみを使用したパスワード通信動作が選択され、以後、装置はパスワードAのみを使用して動作する。a)の画面でテンキーの『2』を押すとb)の表示になり、ここでセットキーを押すと、パスワードBのみを使用したパスワード通信動作が選択され、以後、装置はパスワードBのみを使用して動作する。b)の画面でテンキーの『3』を押すとc)の画面となり、ここでセットキーを押すとパスワードAとパスワードBを使用したパスワード通信動作が選択され、パスワード照合時は、パスワードAかパスワードBのいずれか一方の照合確認にて通信の継続を判定する。c)の画面でテンキーの『4』を押すとd)の画面となり、ここでセットキーを押すとパスワードAとパスワードBを使用したパスワード通信動作が選択され、パスワード照合時は、パスワードA及びパスワードBの両方の照合確認にて通信の継続を判定する。本操作中、ストップキーにより待機状態に戻る。

【0013】図8は図1の1-4のRAM内のパスワード用登録テーブルであり、本テーブルには操作パネルからのパスワードA、B、照合モードの登録操作によりデータがセットされる。本発明の装置では、パスワードAは8ビットで構成されており、テンキーの『1』と『0』を使って登録する。パスワードBは、20桁のキャラクタ列で構成されており、例えば4桁のパスワードを登録した場合、残りの16桁はスペース(20H)がセットされる。照合モードには、図7で説明したように入力されたテンキー情報(1、2、3、4のいずれか)がそのまま登録される。

【0014】図9はPWDとNSSのフォーマットで、いずれもHDL C形式のフレームでできている。図中、パスワードBのエリアは20オクテットになっており、図8のパスワードBの内容がそのままセットされる。また、NSSの情報フィールドのうち1オクテット分がパスワードA用に確保されており、図8のパスワードAの内容がそのままセットされる。

【0015】図10～図13は、本発明による装置の制御部のフローチャートである。プログラムがスタートするとS101でパラメータの初期化が行なわれる。後述のAフラグ、BフラグともにOFFにセットされ、図8のパスワードAは00000000bに、パスワードBは全てスペースにセットされ、照合モードは3にセットされる。次にS102でテンキー入力検出されるとS103へ進み通信のための宛先ダイヤル入力モードとなる。ダイヤル入力終了し、S104でスタートキーが検出されるとI1へ進み、通信が開始される。S10

4でストップキーが検出されると再びS102へ戻る。S105でパスワードAキーが検出されるとS106へ進みパスワードAの入力モードとなり、S107でパスワードBキーが検出されるとS108へ進みパスワードBの入力モードとなる。S109でモードキーが検出されるとS110へ進み、照合モードの設定が出来る。S111で回線からの着信が検出されるとS112へ進み、I-7にあるNCU回路が回線のループ閉結を行ない回線を接続し、I-7はCED信号を送信する。次にS113ではパスワードAの機能ありをNSFで宣言して送信、S114ではパスワードBの機能ありをDISで宣言して送信する。相手装置からPWD信号を受信すると、その内容であるパスワードB情報を一時的に記憶し、さらにNSS信号を受信するとその内容であるパスワードA情報を一時的に記憶し、DCS信号を受信したらS201へ進む。装置に登録された照合モードが1の場合はS202へ進み、S118で記憶した情報と図8のパスワードA情報を比較し、一致ならS208へ、不一致なら通信を中断して終了する。S203で装置に登録された照合モードが2であった場合はS204にすすみ、S116で記憶した情報と図8のパスワードB情報を比較し、一致ならS208へ、不一致なら通信を中断して終了する。S205で装置に登録された照合モードが3であった場合はS206に進み、S116、S118で記憶したパスワード情報と装置に登録されたパスワード情報をパスワードA、Bの両方について比較し、いずれか一方が一致していればS208に進み、いずれも不一致なら通信を中断して終了する。S207では、S116、S118で記憶したパスワード情報と装置に登録されたパスワード情報をパスワードA、Bの両方について比較し、いずれも一致した場合のみS208に進み、いずれか一方が不一致あるいは、いずれも不一致なら通信を中断して終了する。S208へ進むと、相手装置が送信してくるトレーニング/TCF信号を受信した後、S209でCFRを送信し、画像信号の受信を実行する。図12(IIの部分)へすすむと、S301でNSFを受信した場合S302へ進みNSF中のメカコードをチェックする。メカコードが他社の場合あるいはメカコードが自社でもNSF中にパスワードAの機能宣言が検出されない場合はS305へ進み、メカコードが自社でパスワードAの機能宣言が検出された場合はAフラグをONにセットしてS305へすすむ。S305に進みDISを受信したら、S306に進みDIS中にPWDの機能宣言を検出すればBフラグをONにしてS308へ、検出できなければ何もせずS308へ進む。S308で装置の照合モードが1ならS309へ進み、AフラグがOFFなら通信を中断して終了し、ONならBフラグをOFFにセットしてIII(図13)へ進む。S311で装置の照合モードが2ならS312へ進み、BフラグがOFFなら通信を中断して終了し、O

NならAフラグをOFFにセットしてIII (図13)へ進む。S314で装置の照合モードが3ならS315へ進み、A及びBフラグがOFFなら通信を中断して終了し、いずれかがONならIII (図13)へ進む。S316へ進むと、AあるいはBフラグがOFFなら通信を中断して終了し、いずれもがONならIII (図13)へ進む。図13 (IIIの部分)、S401でBフラグONを検出すると、図8パスワードBをPWD信号にセットして送信し、S403でAフラグONを検出すると、図8パスワードAをNSS信号にセットして送信する。次にS405にすすみDCS信号、S406に進みトレーニング/TCF信号をそれぞれ送信し、S408でCFRの受信を検出すると画像送信を開始する。

【0016】(他の実施例) 上記実施例中では、相手装置から受信したパスワード情報と比較すべき登録情報と、PWD、NSSにセットして相手装置に送信すべき登録情報は、図8で示されたように共通であったが、それぞれ個別に独立して登録できるように図8の登録テーブルを拡張することも容易に可能である。

【0017】また、パスワードA、Bを照合した結果、相手装置が閉域グループのメンバーでないと判定した場合は、通信を中断した後、パスワード情報を含む相手装置からの受信情報を図1-2の表示や1-6のプリンタに出力させることも出来る。

【0018】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、異なるパスワード型式で構成された閉域グループのいずれに対しても、パスワード照合モードの切り替え選択によって有効に動作することができ、異なるパスワード型式で構成された閉域グループのパスワード通信動作を全て満足する装置を効率的に提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施例のブロック図である。

【図2】本実施例の通信手順を示す図である。

【図3】本実施例の通信手順を示す図である。

【図4】本実施例の通信手順を示す図である。

【図5】閉域グループの概念図である。

【図6】本実施例の操作パネルの外観図である。

【図7】本実施例の表示例を示す図である。

【図8】本実施例のパスワード、照合モードの設定例を示す図である。

【図9】本実施例の、PWD、NSSの信号フォーマットを示す図である。

【図10】本実施例のフローチャートを示す図である。

【図11】本実施例のフローチャートを示す図である。

【図12】本実施例のフローチャートを示す図である。

【図13】本実施例のフローチャートを示す図である。

【図14】本実施例の装置が使用可能なパスワードを示す図である。

【図15】本実施例の閉域グループで使用するパスワードを示す図である。

【符号の説明】

1-1 CPU

1-2 操作部

1-3 ROM

1-4 RAM

1-5 スキャナ

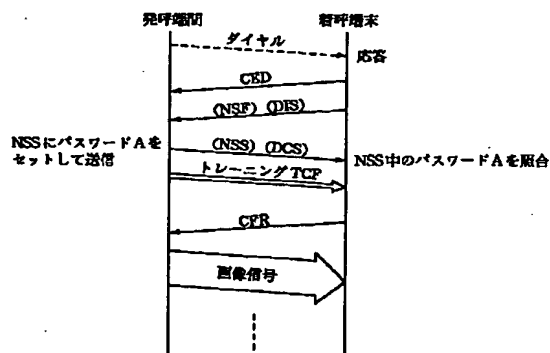
1-6 プリンタ

1-7 通信制御部

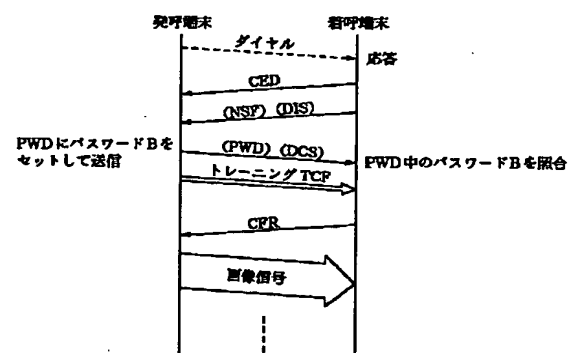
1-8 パス

1-9 回線

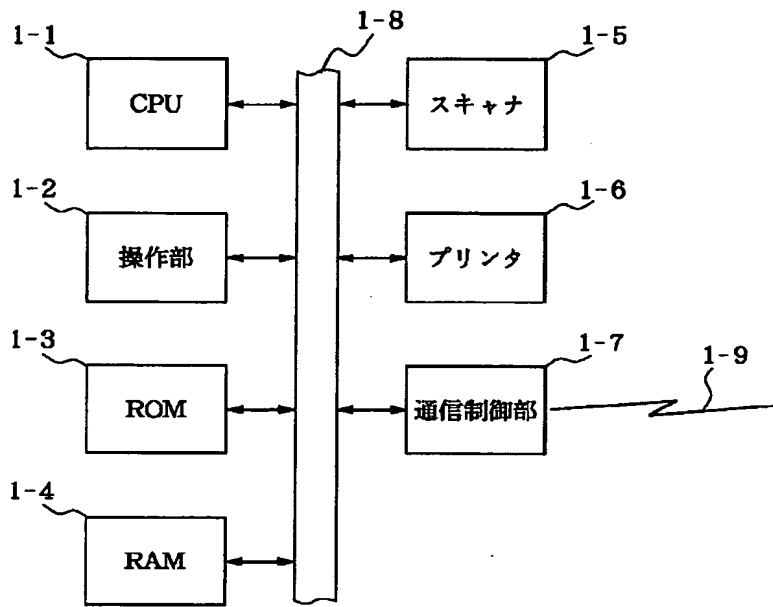
【図2】



【図3】



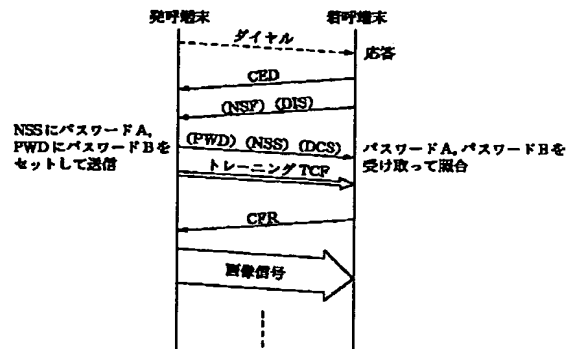
【図1】



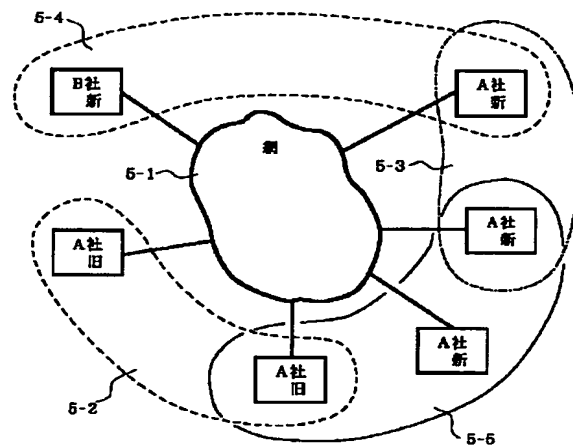
【図7】

- a) 照合モードのセット
1. パスワードAのみ
- b) 照合モードのセット
2. パスワードBのみ
- c) 照合モードのセット
3. パスワードAかパスワードB
- d) 照合モードのセット
4. パスワードAとパスワードB

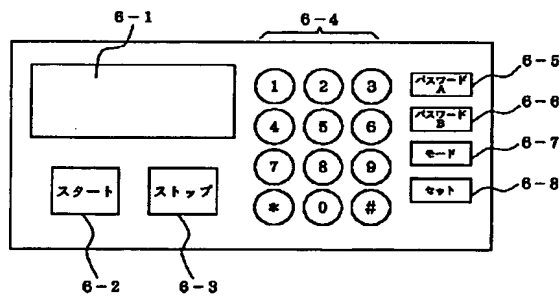
【図4】



【図5】



【図6】



【図8】

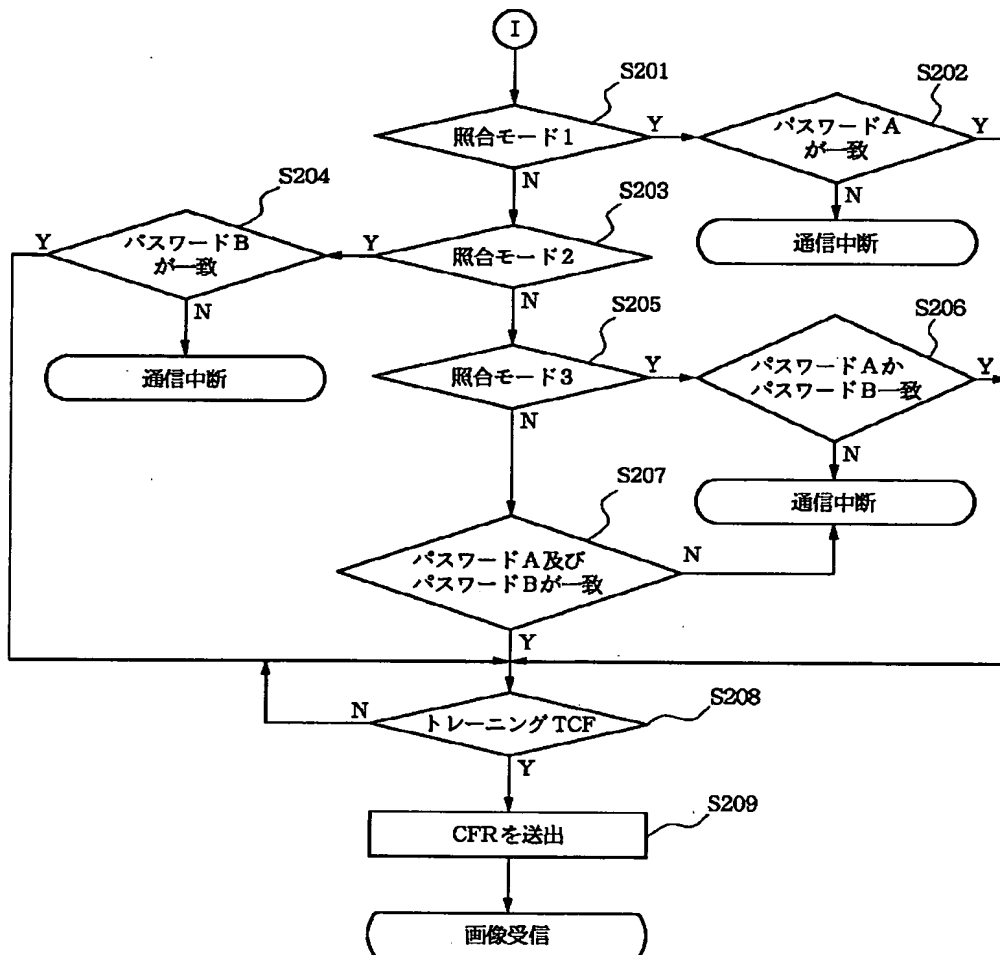
パスワードA	01101011 (8bit)
パスワードB	2143 (キヤラクタ列 82h, 31h, 84h, 33h)
照合モード	3

【図9】

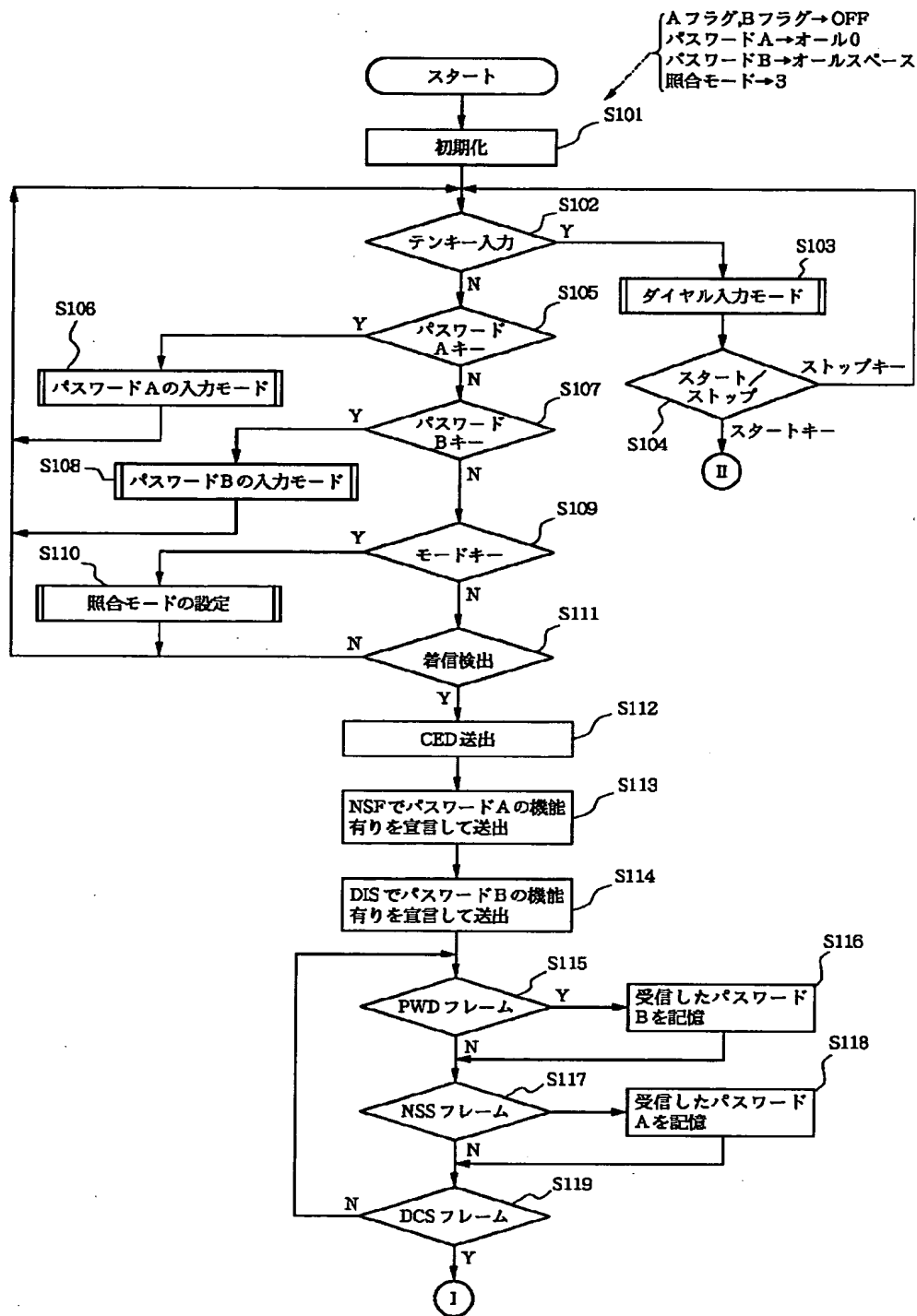
F	A	C	PWD	パスワードB				PCS	F
---	---	---	-----	--------	--	--	--	-----	---

F	A	C	NSS	モード	パスワードA	パスワードB	パスワードC	パスワードD	パスワードE	PCS	F
---	---	---	-----	-----	--------	--------	--------	--------	--------	-----	---

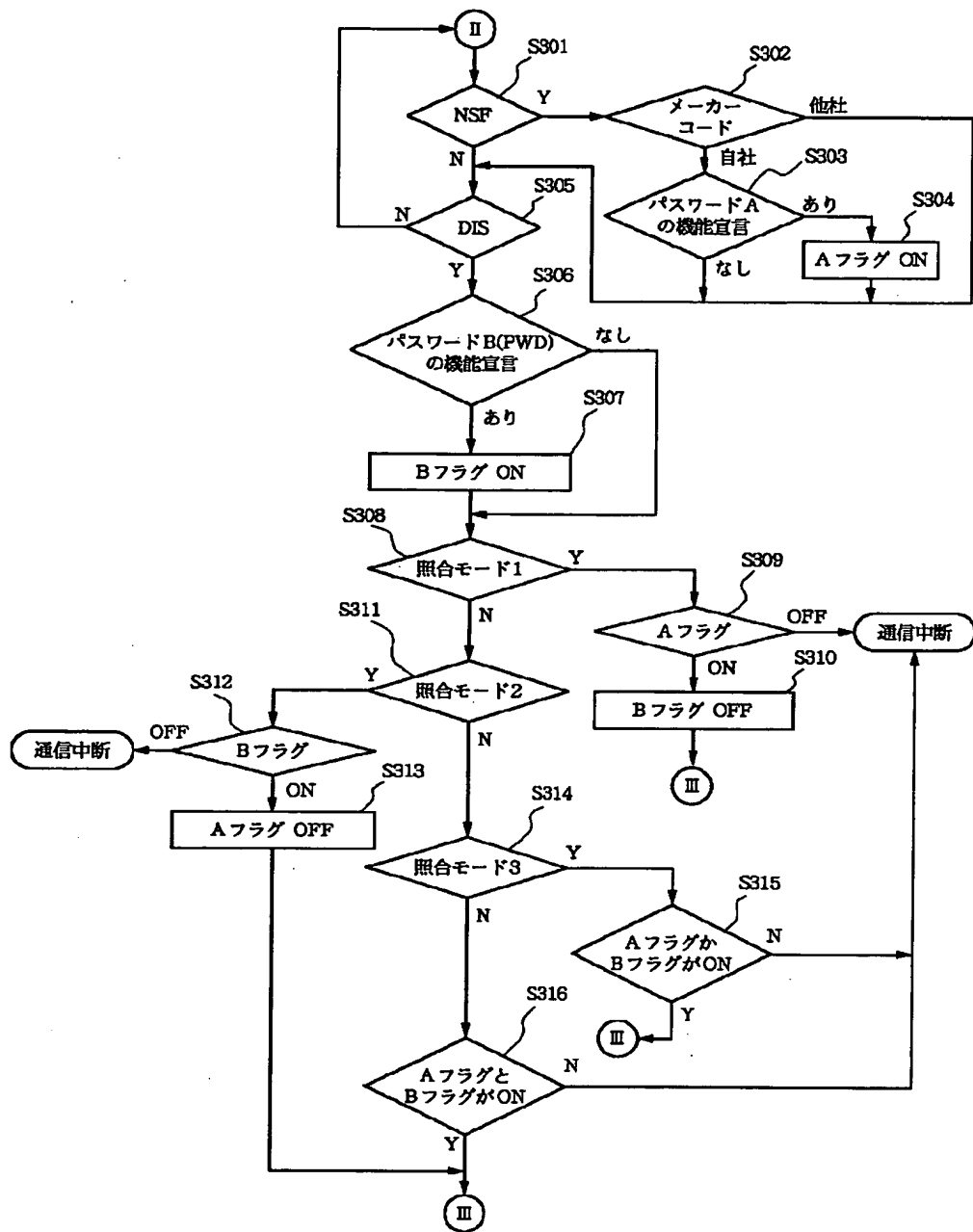
【図11】



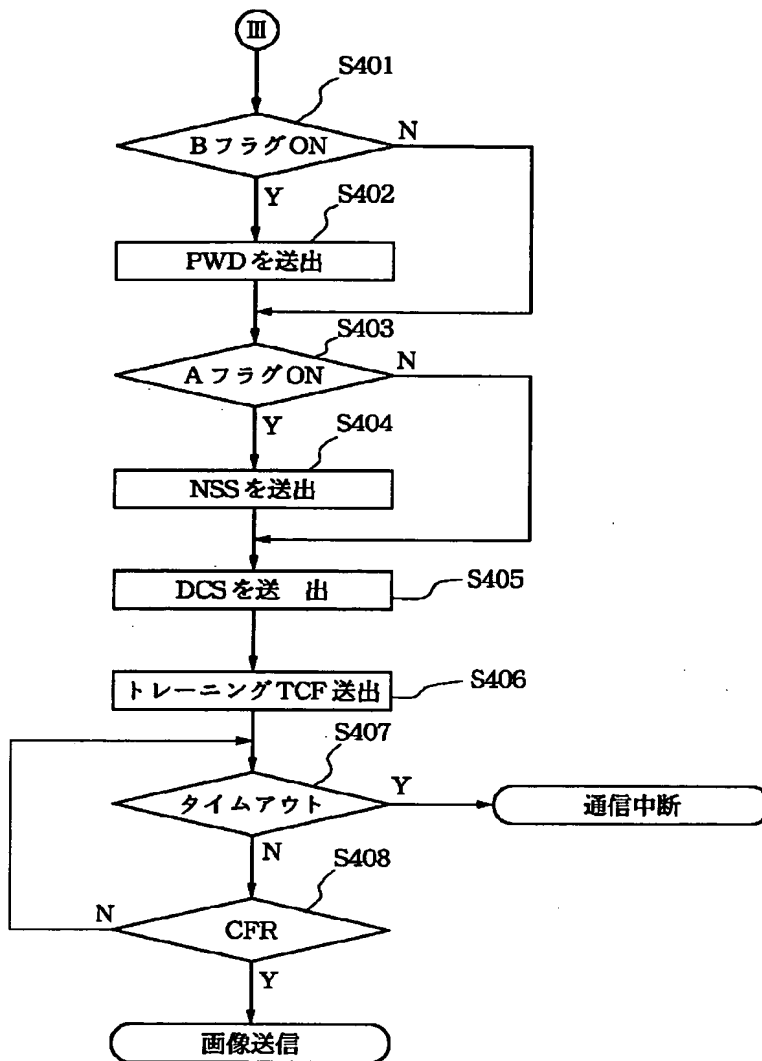
【図10】



【図12】



【図13】



【図14】

	A社 新	A社 旧	B社 新	B社 旧
A社 新	PWD NSS いずれも 利用可	NSS のみ利用可	PWD のみ利用可	×
A社 旧	NSS のみ利用可	NSS のみ利用可	×	×
B社 新	PWD のみ利用可	×	PWD NSS いずれも 利用可	NSS のみ利用可
B社 旧	×	×	NSS のみ利用可	NSS のみ利用可

【図15】

閉域グループの構成	パスワード照合方法	
ケース1) 同一メーカーの旧タイプのみで構成される	NSS中のパスワードAの照合確認	
ケース2) 同一メーカーの新タイプのみで構成される	1	NSS中のパスワードAの照合確認
	2	PWD中のパスワードBの照合確認
	3	NSS中のパスワードA、PWD中のパスワードBいずれか一方の照合確認により判定
	4	NSS中のパスワードAとPWD中のパスワードBの双方とも の照合確認により判定
ケース3) 異なるメーカーの新タイプのみで構成される	PWD中のパスワードBの照合確認	
ケース4) 同一メーカーのみだが 新旧混在する場合	1	NSS中のパスワードAの照合確認
	2	NSS中のパスワードAか、PWD中のパスワードBのいずれ か一方の照合確認により判定

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成13年9月21日(2001.9.21)

【公開番号】特開平7-154569

【公開日】平成7年6月16日(1995.6.16)

【年通号数】公開特許公報7-1546

【出願番号】特願平5-296830

【国際特許分類第7版】

H04N 1/32

H04L 9/32

【F I】

H04N 1/32 E

H04L 9/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成12年11月27日(2000.11.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 呼制御手段と、
遠隔の相手装置と通信を行うための伝送制御手段と、
該伝送制御手段を使用して相手装置との1回の通信中
に、メーカー特有の形式であるパスワード情報と、相互交
信可能な装置間で標準化された形式であるパスワード情
報を含む、異なる種類の複数のパスワード情報を送受信
する手段と、
前記複数のパスワード情報を入力する入力手段と、
前記複数のパスワード情報を記憶する記録手段と、
前記複数のパスワードによるパスワード通信の動作を選
択的に制御するための選択手段を具備してなるファクシ
ミリ装置。

【請求項2】 請求項1において、
前記伝送制御手段を使用して前記パスワード情報を受信
した場合には、
メーカー特有の形式であるパスワード情報のみを照合し判
定する動作と、
標準化された形式であるパスワード情報のみを照合し判
定する動作と、
メーカー特有の形式であるパスワード情報および標準化さ
れた形式であるパスワード情報の両方を照合しいずれか
一方の照合確認にて判定する動作と、
メーカー特有の形式であるパスワード情報および標準化さ
れた形式であるパスワード情報の両方を照合し両方の照
合確認にて判定する動作のうち、少なくとも2つの動作
からいずれか1つを、前記選択手段により選択して動作

することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項3】 請求項1において、
前記伝送制御手段を使用して前記パスワード情報を送信
する場合には、
20 メーカー特有の形式であるパスワード情報のみを送信する
動作と、
標準化された形式であるパスワード情報のみを送信する
動作と、
メーカー特有の形式であるパスワード情報および標準化さ
れた形式であるパスワード情報の両方を送信する動作の
うち1つを前記選択手段により選択して動作することを
特徴とするファクシミリ装置。

【請求項4】 異なる型式の複数種類のパスワードから
使用するパスワードの形式を選択する手段と、前記選択
手段で選択されたパスワードの型式に基づいて、画像デ
ータの通信を行うか否かを判定する判定手段とを有する
ファクシミリ装置。

【請求項5】 呼制御手段と、
遠隔の相手装置と通信を行うための伝送制御手段と、
該伝送制御手段を使用して相手装置との1回の通信中
に、メーカー特有の形式であるパスワード情報と、相互交
信可能な装置間で標準化された形式であるパスワード情
報を含む、異なる種類の複数のパスワード情報を送受信
する手段と、
40 前記複数のパスワード情報を入力する入力手段と、
前記複数のパスワード情報を記憶する記録手段と、
種類の異なる2つのパスワードを受信した場合、その2
つのパスワードと記憶されているパスワードを比較し、
受信したパスワードの少なくとも1つが記憶されたパス
ワードと一致したときに、通信を実行すべきであると決
定する決定手段を具備してなるファクシミリ装置。

【請求項6】 呼制御手段と、
遠隔の相手装置と通信を行うための伝送制御手段と、
50 該伝送制御手段を使用して相手装置との1回の通信中

に、メーカー特有の形式であるパスワード情報と、相互通信可能な装置間で標準化された形式であるパスワード情報を含む、異なる種類の複数のパスワード情報を送受信する手段と、
前記複数のパスワード情報を入力する入力手段と、
前記複数のパスワード情報を記憶する記録手段と、

種類の異なる2つのパスワードを受信した場合、その2つのパスワードと記憶されているパスワードを比較し、受信した両方のパスワードが記憶されたパスワードと一致したときに、通信を実行すべきであると決定する決定手段を具備してなるファクシミリ装置。